

循環器疾患におけるうつ病の有病率調査及び心理社会的要因 との関連の検討

研究分担者 水野 杏一

日本医科大学 内科学 循環器・肝臓・老年・総合病態部門 主任教授

研究要旨

循環器疾患とうつ病などの精神疾患の関係が注目されている。循環器疾患に罹患するとうつ病を発症するリスクが1.8～3.0倍になるとされ、心不全患者のうつ病の併発率は18～26%におよぶと報告されている。循環器疾患とうつ病を併発すると死亡のリスクが高くなるだけではなく、生活の質がさがり、また医療費が多くかかるとの報告さえある。このためアメリカ心臓病学会では2008年のガイドラインで、うつ病に対してスクリーニングを行い、うつ病と診断された場合専門医による介入を推奨している。また近年うつ病だけではなく、不安や敵意も冠動脈疾患のリスクになるとのメタ解析もある。このように欧米では循環器疾患と精神疾患に関する大規模研究も盛んに行われ、専門医の介入もガイドラインに示されているが、日本では大規模研究が行われておらず、ガイドラインにも記載がされていない。そこで、我々は日本人における冠動脈疾患、心不全、冠攣縮性狭心症等の循環器疾患と精神疾患、特にうつ病、不安の関連を明らかにしたい。さらに将来的にはそれらの精神疾患を介入する事により、循環器疾患の予防や治療に役立つかを検討したい。

研究協力者

加藤 浩司
日本医科大学
内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

中村 俊一
日本医科大学
内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

吉田明日香
日本医科大学
内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

福間 長知
日本医科大学
内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

A. 研究目的

日本人における冠動脈疾患、心不全、冠攣縮性狭心症等の循環器疾患と精神疾患、特にうつ病、不安、敵意の関連を明らかにしたい。さらに将来的にはそれらの精神疾患を介入する事により、循環器疾患の予防や治療に役立つかを検討したい。

B. 研究方法

対象は内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）病棟入院患者。循環器疾患を有する患者に対して質問形式でうつ病、不安の有病率を明らかにし、その予後調査を前向きに行う。ただし認知症の患者は除外する。

うつ病に対して Patients Health Questionnaire (PHQ-9)を用いて評価する。不安に対して The Generalized Anxiety Disorder (GAD)-7 Scale を用いて評価する。

敵意に対しては Spielberger Trait Anger Scale(TAS)を用いて評価する。

認知症に対しては Mini-Mental State Examination (MMSE)を用いて評価する。

(1)倫理的問題点

本研究は循環器疾患と精神疾患に関する調査研究で簡単な質問形式で行うため、患者の身体的負担は少ないと考えられるが、精神的苦痛を与えないように配慮する必要がある。調査は患者の精神状態が落ち着いている時に調査を行うこととする。

(2)対象となる者の人権を擁護する方法

本研究は“医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン”を遵守し、患者個人情報の取扱いに細心の注意をはらい実施される。収集情報に含まれる“氏名”“生年月日”“住所”“電話番号”および連結照合による個人特定の可能性を持つ“カルテ番号”を削除し匿名化を行う。本研究の結果公表においても個々の患者が特定されることはない。本研究は以下の宣言・倫理指針および関連法規を遵守し実施される。

ヘルシンキ宣言・臨床研究に関する倫理指針・疫学研究に関する倫理指針

(3)対象となる者の理解と同意を得る方法
担当医師は患者本人に説明文書を渡し詳しく説明する。説明を行った後、説明文書に添付の同意書に必要事項を記入の上、署名を受ける。

C . 研究結果

結果 1 : 2012 年は 11 月までに 202 名の患者登録が完了している。内、解析可能であった計 160 例を以下に示す。

内訳 : 冠動脈疾患 88 名
うっ血性心不全 50 名
不整脈 10 名
冠攣縮性狭心症 7 名
その他 5 名

全体 PHQ-9 陽性 16 名 (10.0%)
GAD-7 陽性 12 名 (6.5%)

疾患別陽性率

PHQ-9 (陽性) GAD-7 (陽性)

冠動脈疾患	11.3%	5.6%
うっ血性心不全	10.0%	8.0%

不整脈	10.0%	10.0%
冠攣縮性狭心症	0%	14.2%
その他	0%	20.0%

D . 考察と結論

日本人の循環器疾患患者におけるうつ病の併存は、一般人口と比較して明らかに高いことが示唆された。うつ病の併存は心不全や冠動脈疾患において高い傾向がみられた。本年度のうつ病もしくは不安の陽性率は前年までと同様の傾向を示していた。長期予後やうつ病への治療介入症例の効果などは今後のフォローアップで明らかにしていきたい。

F . 健康危険情報

特記なし

G . 研究発表

1 . 論文発表
準備中

2 . 学会発表

1. Shunichi Nakamura, Koji Kato, Kyoichi Mizuno 他 3 名

Depression comorbid with anxiety disorder increase cardiac events and mortality in patients with cardiac diseases
日本循環器学会総会 2012

1. Shunichi Nakamura, Koji Kato, Kyoichi Mizuno 他 3 名

Depression disorder in administration patients with CAD is stronger independent risk factors for cardiovascular events than other psychosocial disorders.
European Society of Cardiology (ESC) congress 2012

H . 知的財産権の出願・登録状況 (予定も含む)

現在のところなし

その他必要な資料

特に無し